

世界のトイレを見てみよう!

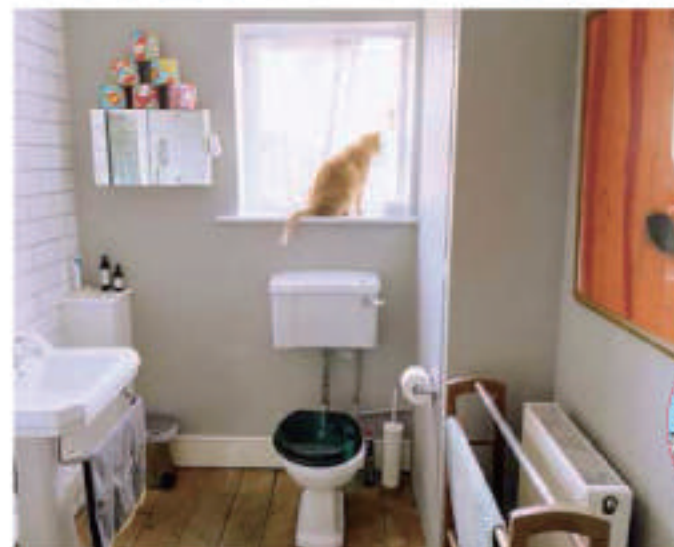
トイレは紀元前 2200 年頃にできてから、その様式や形を変化させ、現在まで使われ続けてきました。人が 1 日にトイレを使う回数は平均 6 ~ 8 回。食文化や気候、環境、宗教によってその仕様は変わりますが、世界中の人たちにとって、トイレが日々の生活に欠かせないものであることに違いはありません。日本のトイレは、自動洗浄機能や便座を温める機能がついた、高性能で清潔なものが普及しています。これはほかの国ではあまり見かけないものです。一方、世界には扉や便座がないもの、トイレットペーパーを使わないものなど、様々なスタイルのトイレがあります。また、トイレ自体がない地域もあります。



イタリア



トイレは「バーニョ」と呼ばれ、お風呂と同じ空間にあります。便器の横には、便器によく似た形をした「ビデ」と呼ばれるものがあります。これはお尻などを洗う場所で、ナポリ王妃だったマリア・カロリーナが王宮のトイレに取りつけたことがきっかけで広まったという説があり、イタリアのほとんどの家庭のトイレに付いています。ビデ専用の石鹸などが置いてあることもあります。



イギリス



日本のような自動洗浄機能がついているトイレは少なく、旧式のものを使用されています。便座は陶器でできていて、蓋は開閉する度にどっしりとした重さを感じます。木製の蓋がついているトイレもあります。タンクについているハンドルを下げると水が流れる仕組みになっています。



キューバ



キューバでは、使用済みのトイレットペーパーを、便器の横の専用ゴミ箱に捨てます。タンク内の水が不足していて、紙などを十分に流せる量の水が出ないことや、排水パイプが詰まるのが頻繁にあるためです。



イラン



ほとんどの家庭には、洋式タイプと、和式のようにしゃがむタイプの 2 種類のトイレがあります。穴がある方にお尻を向けてしゃがみます。紙は使わず、備えつけのホースを右手に持ち、左手で洗い流します。水温も調整できるようになっています。



ジョージア



ジョージアの東部、ワインの一大産地である、カヘティ地方の村のトイレです。水洗式ですが、タンク内の水が不足して流れが悪いことがあるため、桶に入った水を使っても流せます。お尻などを洗うためのハンドシャワーもついています。



ベリーズ



ベリーズのサンイグナシオの家庭には、手すりがついた木の箱のような椅子型の手づくりトイレがあります。トイレの囲いは、その土地で育つ木の柱にバナナの葉を編み込んでつくられています。外から見えないことなく、通気性は抜群です。



世界のお風呂を見てみよう!

紀元前 4000 年のはるか昔から、人間はお風呂に入ってきました。当初は、体をきれいにする目的のほか、宗教的な目的で使われることもありましたが、日本人は大的お風呂好きとして世界に知られています。昔は薪をくべ、火を焚いてお湯を沸かしていましたが、現在では追い焚きや温度調整機能がついた便利なお風呂が普及しています。世界では日本のように湯船に浸かる習慣のある国は少なく、地域によってはお湯を使わなかったり、サウナのようなスチームのお風呂を日常的に利用していたりします。アフリカのナミビアにクラスヒンバ族のように、水を使わずに体を清潔に保つ民族もいます。



パラグアイ



パラグアイの日本人移住地ラパスの家の一部では、その昔日本人が使っていた「五右衛門風呂」と呼ばれるお風呂が使われています。お風呂の土台であるかまどで火を焚いて湯め、濡いた板を足で洗って入浴します。熱が柔らかく伝わり、お湯がとてもまろやかになる特徴があります。体の芯から温まり、ぐっすり眠れます。



パラグアイの日本人移住の歴史

南アメリカ大陸の中央に位置するパラグアイには、多くの日系人がくらししています。彼らは 1936 年にブラジルからパラグアイへの入国許可を取得し、移住してきました。終戦後にも、日本から多くの移住者が海を渡り、パラグアイでくらし始めました。移住者は農業を営み、大豆や白菜、大根、人参などを栽培し、現地の食文化を豊かにしました。パラグアイには主に 4 か所の日本人移住地があり、日本の食事や習慣を保ちながらくらししています。

ミニコラム

フィンランド

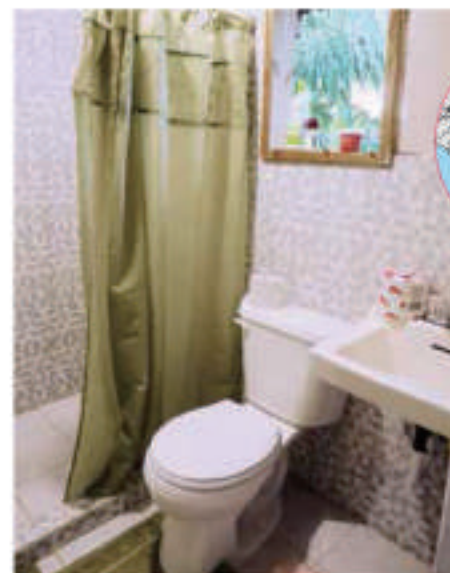


「サウナ」という言葉は世界一有名なフィンランド語でしょう。国内に 200 万個以上あると言われるサウナは、フィンランド人にとってリフレッシュができる神聖な場所でもあります。首都のヘルシンキのマンションの多くには、居住者のための共有サウナが設置されています。

パラオ



大多数のパラオ人がくらすコロール島では、シャワールームが家の外に取り付けられていることがあります。年中高温多湿な環境でくらすパラオ人には、お湯でシャワーを浴びる習慣がなく、多くの家のシャワーは水しか出ないようになっています。



アメリカ合衆国

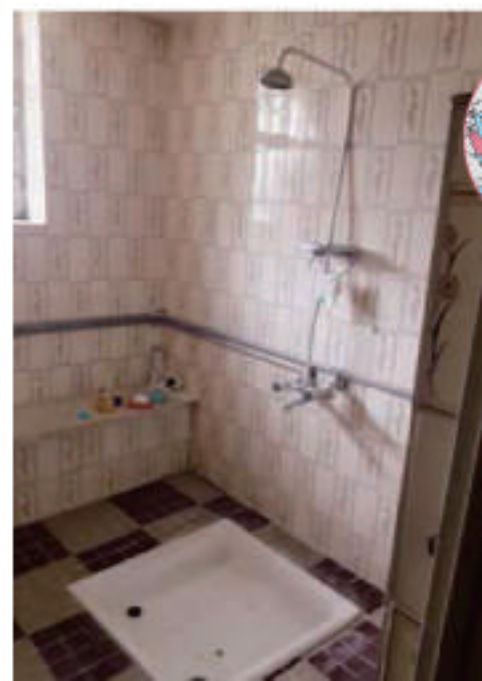


シャワーやトイレ、身支度などをする場所として使われるバスルームは、多目的に利用されるプライベートスペースのため、広い空間につくられています。アメリカでは親子であっても異性の場合は、お風呂やシャワーと一緒に入ることは非常識な行為として避けられています。

イラン



イランの一般家庭のお風呂は、シャワーヘッドが固定されています。水の出る穴が大きめにつくられているのが特徴で、大雨に打たれているような気分になります。都会のマンションなどのお風呂は、トイレと一体化しているところも多く、シャワーを使う度にトイレもずぶ濡れになります。



世界の公衆浴場を見てみよう！

景色を眺めながら広々としたお風呂に入ることのできる公衆浴場（銭湯、公衆温泉）は、家のお風呂とは違った心地よさが感じられます。世界では、日本人のように日常的に湯船に浸かる習慣を持つ国は非常に少ないですが、公衆浴場が好きな人たちはたくさんいます。日本の公衆浴場は、男女に分かれて裸で入浴するのが一般的ですが、世界にある公衆浴場の多くは、水着を着用して、男女混合で入浴します。



コスタリカ

世界有数の火山国、中米コスタリカにあるタバコン温泉は、アレナル火山の噴火によって湧き出したお湯を利用した公衆温泉です。ジャングルの中にあるこの温泉では、温度や水の流れる速度が違ふものなど、様々な種類のお風呂に入ることができます。コスタリカは、全世界の動植物の約5%が生息すると言われる、生物多様性の宝庫の国です。温泉に浸かりながら、美しい色をした蝶、イグアナ、珍しい草花などを見ることができます。

アイスランド

北ヨーロッパの北大西洋上にある島田アイスランドには、「ブルーラグーン」と呼ばれる世界最大の温泉露天風呂があります。地熱発電所で汲み上げられた、塩分を含んだミネラルが豊富な温泉水です。乳白色の色の正体は「シリカ」と呼ばれる白い泥で、肌がスベスベになる成分が含まれています。成人男性の足が届かないほど深いところもあります。



©Icelandair & ©viking

ジョージア

首都トビリシという名前は、ジョージア語の「トビリ（湯かい）」からきていて、温泉が湧くことに由来します。その昔、狩りをしていた王様が撃ったキジが温泉に落ち、傷を負ったもののたちまち元気になったことから、王様が温泉の力に驚き、この地を首都にしたという伝説が残っています。市内には、「ハمام」と呼ばれるドーム型をした公衆温泉があります。硫黄泉でお湯がトロツとしていて、肌がしっとりします。



スペイン

スペインの西部ガリシア州のオウレンセには、川べりにつくられた無料の公衆温泉があります。いくつもの水温が異なる温泉が石で囲われています。ガリシア州はスペイン国内でも特に降水量が多く、緑が豊かな地域で、300以上の源泉があります。かつて、入浴習慣のあるローマ人が定住し、たくさんの温泉を建設しました。

インド

インドには、ヒマラヤ山脈のガンゴートリー氷河を源とする、流域面積が日本の面積の2倍以上もあるガンジス川が流れています。ガンジス川流域のバラナシでは、ヒンドゥー教徒たちが、「沐浴」をする姿が見られます。彼らにとっては聖なる川で、その水で体の汚れを落とすことは、罪を洗い流し、浄化させるものだ信じられています。人びとは体を清めるだけでなく、洗濯、染色、トイレ、食器洗い、死体の処理などにも川の水を利用しています。



トルコ

トルコは、日本と同じく火山国で、温泉が各地に湧いています。トルコの西部デニズリ県にある温泉地は、昔から綿の名産地。白い棚田のような景観の温泉は、「パムッカレ（綿の城）」と呼ばれています。雪のような白さは、炭酸カルシウムを含んだ温泉成分が長い年月をかけて沈積したものです。青空が水に反射して、きれいな青白い色合いに見えます。水温は36度と、日本人にとってはぬるめです。